

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

② 施設・事業所情報

名称：小嶋保育園本園・分園	種別：認可保育所
代表者氏名：足立 美智子	定員（利用人数）：（本園）60名（55名） （分園）60名（64名）
所在地：（本園）〒221-0045 横浜市神奈川区神奈川 2-17-6 （分園）〒221-0046 横浜市神奈川区神奈川本町 7-3	
TEL：（本園）045-461-6833、（分園）045-534-5901	
ホームページ： http://www.k-roufukukyo.jp/publics/index/8/	

【施設・事業所の概要】

開設年月日（本園）1957年11月3日（分園）2014年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 神奈川労働福祉協会	
職員数	常勤職員：（本園）15名 （分園）11名 非常勤職員：（本園）7名 （分園）18名
専門職員	保育士（本園）15名、（分園）12名 栄養士（本園）1名、（分園）1名
	看護師（本園・分園兼務）1名 調理師（本園）1名、（分園）1名
	准看護師（本園）1名
施設・設備の概要	（居室数） 【本園】保育室5室、厨房1室、事務室1室、 医務室コーナー（事務室内）、職員休憩室2室、予備室1室 【分園】保育室6室、厨房1室、事務室1室、 医務室コーナー（事務室内）、職員休憩室2室、ホール
	（設備等） 【本園】屋上 【分園】園庭、屋上園庭

③ 理念・基本方針

【法人の基本理念】

日本の心臓部、京浜工業地帯・神奈川に働く人々の生活の安定と向上、文化の創造的発展の為に、そしてとりわけ、働く女性たちと子どもたちの為に最善を尽くします

【保育基本理念】

子どもたちの「今、ここに生きる」を大切に、一人ひとりが「かけがえのない存在」と感じて、自信を持って生きていく力を育てます

【保育目標】

健やかなこころとからだの基礎を培います

【園目標】

- ・体をおもいきり使い、友だちと遊ぶのが大好きな子
- ・自分で考え、行動できる子

【園・保育目標】

一人ひとりの違いや良さが生かされ、お互いを認め、子どもたちの自我を大切に、友だちが好き、自分が好きな子に育みます

【保育方針】

- ・職員は、子どもたちを真ん中に保護者と手をつなぎ、みんなで育ち合う保育を目指します
- ・職員は、子どもたち一人ひとりの育ちを大切に、園生活を生き生きとおくれる保育を目指します
- ・職員は、自己研鑽につとめ、職員集団としての専門的力量に裏打ちされた保育を目指します

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・子どもたちの生活と活動の中からでてきた行事を大切にし、継続的に取り組んでいます。
- ・園の周辺の公園を活用し、散歩や戸外活動を多くしています。本園は、園庭の代わりに道路を挟んで向かい側にある東神奈川公園を日常的に使用しています。分園は、小さな園庭と屋上園庭がありますが、隣接する東神奈川公園も使用しています。子どもたちは日常生活の中で交通ルールを身に付けています。また、公園の草花や泥などを活用しています。
- ・園外保育で、遠くの公園まで散歩に行くことで、歩くことが身に付き動きがしっかりしてきます。また、災害時、緊急時の避難方法や、ルートを確認しています。
- ・本園は、敷地も狭く4階建てのため、建物内をフル活用しています。子どもたちは、乳児期から階段の上り降りを経験し、階段を上って4階や屋上へ行き、足腰を鍛えています。
- ・栽培するための苗を4・5歳児クラスで買いに行き、グループごとにプランターを育てています。自然の少ないところだからこそ、栽培活動を大切にしています。
- ・生活の中から出てくる体験を絵画にして表現します。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年6月1日(契約日)～2021年3月2日(評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	(本園)2回(2008年度)、(分園)1回(初回)

⑥総評

◆特に評価の高い点

●子どもたちは、様々な経験を積み、元気いっぱい園生活を楽しんでいます

園は、公園遊びや散歩などの戸外活動を多く取り入れ、子どもがたくさん身体を動かして心身を開放し、遊びながら足腰を鍛えられるようにしています。近くの公園を園庭代わりに使い、朝夕の自由遊びや活動の切れ目にも外で身体を動かしています。三輪車や鉄棒などの外遊び用の遊具もたくさん用意し、子どもの要望に合わせて自由に出して公園で遊べるようにしています。製作や歌、楽器、リズム遊びなどの表現活動も多くあり、季節ごとに、凧や羽子板などのおもちゃを手作りし、楽しんでいます。4・5歳児は合同保育となっていて、5歳児がリーダーとなってグループで行事や活動の内容について話し合っ決めて、自分たちで準備をして行うなど、異年齢での学びも多くあります。

●職員は会議等で子どもの状況について話し合い、連続性を持った保育を実践しています

毎月の乳児部(0・1歳児)、幼児部(2歳児～5歳児)のカリキュラム会議で一人ひとりの子どもの状況についてクラス担任だけでなく複数の目で話し合い、指導計画を作成しています。個々の子どもについてしっかり話し合いを重ねることで、全職員が子どもに合わせた働きかけができるようにしています。幼児部で保育室や公園の使い方を決め、環境設定や子どもへの働きかけ方を統一することで、生活の繰り返しの中で子どもが自分で理解し、自分で判断できるようになるようにしています。基本的な生活習慣も、個人差を尊重しながら年齢にあわせた環境構成や子どもが自分で気づき、やりたいと思えるような声掛けを工夫し、自然に身に付けられるようにしています。行事は、年齢ごとの発達段階が分かるようにプログラムを工夫し、年下の子どもが年上の子どものやっていることを見てあこがれて先の見通しを持ち、主体的に活動に取り組めるようにしています。園内研修でも年齢ごとの発達段階について学習し、保育目標にある子どもが先の見通しを持ち「自分で考え、行動できる」ように支援しています。

◆改善を求められる点

●文書の整備を進めていくことが期待されます

園は、職員ハンドブックを始めとして、衛生管理などの各種マニュアルや嘔吐処理などの手順書を整備し、読み合わせや掲示で職員に周知しています。ただし、マニュアル類の中には、見直しがされていなかったり、古いものとの差し替えがなされていなかったりするものがあります。掲示物も古い物との差し替えがなく、最新の物がどれであるか分かりづらい箇所もあります。

子どもに関する記録はきちんと整備されていますが、園の自己評価などは、話し合いなどがなされているものの、文書としてのまとめが不十分となっています。

職員間で情報共有を図るためにも文書の整備や整理を進めていき、いつ誰が見ても分かりやすいようにしていくことが期待されます。

●衛生面、安全面、防災などを踏まえた環境整備に向けたさらなる取り組みが期待されます

園は、子どもの成長発達に応じた環境整備に力を入れています。ただし、整理整頓や物の置き場所など、さらなる見直しが必要かと思われる箇所も見られましたので、衛生面、安全面、防災面など様々な点から見直し、整えていくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、コロナ禍の中でしたが、第三者評価を受審しました。

こういう社会状況の中で、保育園の歩む方向をしっかりと探っていきたいと考えて、第三者評価を受審しました。

保護者の皆様には、短期間にもかかわらずアンケートに御協力を頂きまして、大変ありがとうございました。感謝致します。

分園ができて7年、職員数は以前の倍になりました。本園・分園それぞれの職員が日々の保育実践や子ども達の姿、保育の方向性等を様々な角度から話し合い、見直し、振り返ることができて大変良かったと思います。

課題として、改善すべき内容はしっかりと受けとめて、今後に活かしていきたいと考えます。

保育の方向性を職員全体で共有し一人ひとりがよりいっそう自覚的に力を発揮することができるようにしていきたいと考えています。

小鳩保育園本園・分園

園長 足立美智子

副園長 中村 友美

主任 鈴木 寛子

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり